

令和 4 年度

おおいたっ子ワンニャン検定

テキストブック(児童用)



氏名()

おおいた動物愛護センター

目 次

I	ペットが生き生きと生活するために考えよう	(1)
1	ペットの「5つの自由」のこと	
2	ペットが生き生きと生活するために、飼(か)う前の心がまえ	(1)
	(1)命をあずかる責任(せきにん)	
	(2)社会に対する責任	
3	犬を飼うときのルールとこころえ	(2)
4	ネコを飼うときのルールとこころえ	(3)
※	さくらネコプロジェクトについて	(3)
II	犬やネコとなかよしになるために、体のことや気持ちを知ろう	(4)
1	犬・ネコの身体(しんたい)のとくちょう	(4)
	(1)犬の体	
	(2)ネコの体	
2	犬・ネコの習性(しゅうせい)	(6)
	(1)犬の習性	
	(2)ネコの習性	
3	犬・ネコのしぐさと気持ち	(7)
※	新たな飼(か)い主との出会い「譲渡(じょうと)会」	(7)

※(文中のちいさな文字は、ふりがな) ※(「ふりがな」は最初の文字のみ)

このテキストは、「令和4年度おいたっ子ワンニャン検定(けんてい)」の参考(さんこう)となるものです。ペットとの楽しい生活をすすめていくためにも、読んでくださいね。 ※(文中のちいさな文字は、ふりがな) ※(「ふりがな」は最初の文字のみ)

I ペットが生き生きと生活するために、考えよう。

動物(どうぶつ)には、人間と同じように、命(いのち)があり、生きていくために必要(ひつよう)なことがあります。そのため、飼い主には、できる限(かぎり)りペットのことを考え、ペットがきもちよく生活できるようにする責任(せきにん)がある。

これは、世界中でみとめられている考え方で、日本でも、「動物愛護(あいご)及び管理(かんり)に関する法律(ほうりつ)」をはじめとする法令(ほうれい)などにしめされている。

日本では1973年(昭和48年)に始められた。

1 ペットの「5つの自由」のこと(※「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準」から)

(1) 飢(う)えやかかわきからの自由(じゆう)

○飼い主は、適切(てきせつ)なエサをあげる。水はいつでも飲(の)めるようにしておく。

(2) 不快(ふかい)からの自由

○せいけつで安全な場所(ばしょ)を用意して、動物が気持ちよく過(す)ごせるようにする。

(3) いたみ・けが・病気(びょうき)からの自由

○けがや病気の場合、適切な治りようを受けさせる。病気の予防を心がける。

(4) 恐怖(きょうふ)・抑圧(よくあつ)からの自由

○ペットが多(お)きな恐(おそ)ろしさや不安など、大きなストレスを感(かん)じないようにする。

(5) 正常(せいじょう)な行動(こうどう)を表現(ひょうげん)する自由

○ペットが本能や習性に合った動物本来の行動がとれるように工夫する。

2 ペットが生き生きと生活するため、飼(か)う前の心がまえ

ペットを飼(か)うことは、命を預(たくわ)かり、地域(ちいき)社会の中で暮(く)ら

していくこと。そのための飼い主の責任(せきにん)があります。

(1) 命をあずかる責任(せきにん)

①ペットの習性を理解(りかい)し、安全にくらせるよう、あいじょうを持ってペットの命がつきるまで、



一生飼うこと。

②適切(てきせつ)なえさ(成長期は栄養のある食事)や水をあげ、必要(ひつよう)な運動、予防注射(よぼうちゅうしゃ)をし、健康(けんこう)や安全をまもること。

③ペットのふんやにようはひろって持ち帰り、せいけつをたもつこと。

(2) 社会に対する責任

①ペットが人とうまく共生するためにも、人を傷(きず)つけたり、なき声やフンのおきざりなどで近所に迷惑(めいわく)をかけたりしないようにすること。

②ペットは、まいごになるかもしれないので名札をつけること。マイクロチップ(直けい 2mm 長さ約 1cm のカプセル型)を体内にうめこむことが望ましい。

③ペットに関する法律やルールの基本的(きほんてき)な内容を調べること。

④飼っている動物が増(ふ)えすぎて管理できないようにならないこと

3 犬を飼(か)うときのルールとこころえ

(1) 犬の登録(とうろく)と狂犬病予防注射(きょうけんびょうよぼうちゅうしゃ)をしよう。

①犬にも戸籍(こせき)がつくられる。飼い主は、生後 91 日を過ぎたら「犬の登録(とうろく)＝一生に 1 度」と、「狂犬病予防注射(毎年 1 回)」を受けることが定められている。

②これらがすんで初めて犬は家族(かぞく)の一員としてみとめられる。

(2) 犬の健康(けんこう)に気をくばろう。

①健康を守るのは、飼い主の「病気の予防」と「早期(そうき)発見」の気くばり。

②様子を日頃から観察(かんさつ)し、健康に気をくばってあげることが大切。

③異常(いじょう)を感じたときは、早めに医者(いしゃ)に相談(そうだん)しよう。

○食欲(しょくよく)はあるか。○なき声、呼吸(こきゅう)はいつもと同じか。

○せき、くしゃみをしていないか。○毛づやはよいか。

○目やに、耳だれ、鼻水などは出ていないか。○フンや尿は正常(せいじょう)か。

(3) 繁殖(はんしょく)は飼い主で責任をとろう。

①繁殖を望まないのなら、早期に不妊(ふにん)・去勢(きよせい)手術をしよう。

②不妊・去勢手術を行うと、病気の予防(よぼう)や性格(せいかく)がおだやかになるなどの期待(きたい)ができる。

③子犬がうまれてしまったら、飼い主の責任(せきにん)で新しい飼い主をさがすか、その犬の命がつきるまで飼うこと。

(4) しつけをしよう。

①犬のことをきちんと理解(りかい)し、種類・性格に応じたしつけをしよう。

②しつけは、人と犬とが幸せにくらすために必要。

③しつけ方がよくわからないときは、おおいた動物愛護(どうぶつあいご)センターで行う「しつけ教室」に参加を。

(5) 適切な飼い方をしよう。

①犬の放しがい(はなしかい)は禁止(きんし)です。

②飼い犬を敷地(しきち)内につなぐ場合、ロープなどの長さにも注意しよう。

③さんぽは、愛犬の運動、エネルギー発散(はっさん)、気分てんかん、ストレス発散にもなるので、毎日つれて行くようにしよう。

○リードでつないで歩こう(リードをチェックして、ゆるめにもつ)。

○フンはかならず持ち帰ろう。

○水を入れたペットボトルを用意し、尿(にょう)をした場所を洗い流そう。

○ブラッシングなどで、せいけつにしよう(スキンシップにもなる)。

(6)万が一のためにそなえよう。

- ①万が一、飼い犬がまいごになっても飼い主のもとに帰ってくるように、かんさつ・注射済票(ちゅうしゃずみひょう)・マイクロチップなどをつけておこう。

※ 狂犬病予防法で飼い犬につける義務がある、「かんさつ」・「注射済票」は、犬のとうろく、狂犬病予防注射せしゅ時に交付される。

- ②飼い主は飼い犬が行方不明になったら、すぐに、「おおいた動物愛護センター」や近くのけいさつしょに、まいごの届け出をすること。

4 ネコを飼うときのルールとこころえ

(1)予防接種(せしゅ)を受けさせよう。

- ①ネコにも病気の予防ワクチンがあります。
- ②相手は目に見えない病原体です。きちんと予防接種を受けさせよう。

(2)繁殖(はんしょく)は飼い主で責任とろう。

- ①飼い主が繁殖について、管理することで、かわいそうな命をつくらないようにしよう。
- ②繁殖を望まないのなら、早期に不妊(ふにん)・去勢(きよせい)手術をしよう。
- ③不妊・去勢手術を行うと、病気予防や性格がおだやかになるなど期待できる。
- ④子ネコが産まれたら、飼い主の責任で新しい飼い主を探すか、命が終わるま飼いつけること。

(3)しつけをしよう。

- ①トイレのしつけをしよう。いつもきれいなトイレの用意などを心がければ、トイレのしつけはスムーズにいくはず。
- ②つめとぎなどのしつけを行おう。

③ほめて、してほしい行いを身につけさせよう。

(4) 飼いネコの安全・安心を思うなら、完全室内飼育をしよう。

①ネコは、エサがじゅうぶんであり、適度(てきど)な上下運動(うんどう)ができ、自分のテリトリーが守られていれば、広い生活空間は必要(ひつよう)ない。

②おもちゃなどでいっしょに遊んだりする時間をつくり、運動エネルギーの発散(はっさん)やコミュニケーションをとるようにしよう。

《室内飼育のよさ》

○交通事故(じこ)に遭(あ)わない。○感染症(かんせんしょう)にかかりにくい。

○ノミ、ダニの寄生を防ぐとともに、人にうつる病気を予防できる。

○妊娠(にんしん)しない。○他人に迷惑(めいわく)をかけない。○迷子(まご)にならない。

(5) 名札(なふだ)をつけよう。

①万が一外へ出た場合のことを考えて、のらネコと間違(まちが)われないためにも、飼いネコには飼い主の連絡先などを記した名札を付けるようにしよう。

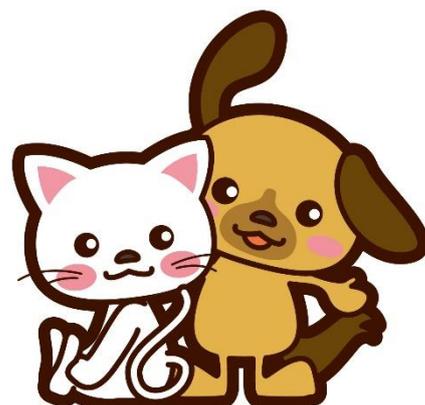
②マイクロチップをつけることが望ましい。

※2019年6月、販売用(はんばいよう)の犬・ネコにはマイクロチップをうめ

こむことを義務(ぎむ)づける「改正動物愛護法(かいせいどうぶつあいごほう)」がさだめられた。

※ 「さくらネコプロジェクト」について

不幸なネコをふやさないために、地域のネコに赤ちゃんが産まれないよう、無料で手術するという取り組みをすすめている。手術を終えたネ



コには、それが分かるように、耳に V 字カット

を入れている(オスは右耳、メスは左耳)。

Ⅱ 犬やネコとなかよしになるために、体のことや気持ちを知ろう。

1 犬・ネコの身体のとくちょう

(1) 犬の体

動物にはもともと持っている、すぐれた能力があります。

犬にふさわしい飼い方をするため、体の特ちょう等を知っておこう。

① 目 [近視(きんし)だけど、視野(しゃ)が広く、動体視力(しりょく)はばつぐん]

○人の視力で表すと、0.2～0.3 程度

○動くものには 100m 離(はな)れていても敏感(びんかん)に反応(はんのう)する。

○暗(くら)いところで見る能力は、人間の 8 倍と言われている。

② 鼻(はな) [においをかぎわけける力は、人間の約 100 万倍]

③ 耳 [人には聞こえない小さな音や高音を聞き取れる]

○音の大きさの聞き取りは人間の 6 倍。

④ 口 [においで味わい、肉や草など何でも食べる]

○何でも食べるタイプだが、お米や野さいを消化する能力は人より低い。

○歯(は)は人と同じように、乳歯(にゅうし)から永久歯(えいきゅうし)へと生え

かわる。

・乳歯は 28 本、生後 6 週目ころに、はえそろう。

・その後、5～7カ月の頃までに、42本の永久歯が生えそろう。

⑤ ひふ [やさしくなでられると、気持ちが落ち着く]

○一般的には、耳の付け根や背中、むねなどをユックリなでると落ち着く。

○シッポやお尻、鼻や口の周り、足の先は敏感でさわられるのをいやがる。

⑥足[かりでつちかわれたバツグンの走力]

○走るのが速く、速い犬は時速 70km で、しかも長く走ると言われている。

○足のうらには肉球があり、わずかに汗をかく汗腺(かんせん)がある。

⑦赤ちゃんの出産

○生後約半年から赤ちゃんを産(う)めるようになり、以後、年 2 回、出産

(しゅっさん)できるようになる。

○妊娠(にんしん)期間は約 2 ヶ月。

⑧年齢[人間にくらべると、犬の成長ははやい。命の長さは短い]

○小型犬は 1 年半で人間の 20 歳となり、それ以降の 1 年は人間の 4 年分。

○大型犬は 2 年で人間の 20 歳となり、それ以降の 1 年は人間の 6 年分。

○平均じゅみょうは、約 14.48 歳(2020 年「環境省(かんきょうしょう)」から)。

小型犬の方が長生きするけいこうにある。



※ 犬は特に人をいやす力があり、犬とのふれ

あいを治療(ちりょう)に利用することがある。

これを動物介在療法(かいざいりょうほう)という。

(2)ネコの体

動物にはもともと持っているすぐれた能力があります。

ネコにふさわしい飼い方をするため、体の特徴(とくちょう)などを知って

おきましょう。

①目[暗いところでもよく見える]

○夜行性であり、「タペタム」という部分が弱い光を大きくする。

○光の量や感情によってひとみの大きさが変わる。

○人間が見えなくなる6分の一程度の明るさでも、物を判断できる。

②鼻[犬ほどではないが、人間の数万～数十万倍の能力がある]

③耳[ネコの感覚で一番すぐれている。人には聞こえない高い音を聞き分ける]

○人間は2万ヘルツまでだが、ネコは10万ヘルツまで聞ける。

○音源の方向や距離を知る能力にすぐれている。

○ネコの耳は左右別々に180度動き、広範囲の音をキャッチできる。

④口[においで味わい、すっぱい味に敏感]

○もともと肉食動物で、えものの肉がくさっているか判断するため発達。

○舌はトゲ状のときでザラザラ。スプーン、フォーク、ブラシ代わり。

○歯は人と同じように、乳歯から永久歯へと生えかわる。

・乳歯は26本、生後6週目頃に生えそろう。

・その後、6カ月齢の頃までに、30本の永久歯が生えそろう。

⑤ひげ[ひげは、すぐれたアンテナ。いたずらに切ってはいけない]

○目の上、ほお、口の横、あごにあり、何かが触れると、のうに伝わる。

○シッポ、鼻や口の周り、足の先は敏感(びんかん)でさわられるのをいやがる。

⑥足[しゅん発力・バランス感覚はバツグン]

○長きよりを走るのは苦手。一しゅんでえものをとらえる。

○ジャンプが得意で、体高の5倍は飛び上がれる。

○足の裏には音を立てずに歩けるパッドがある。えものにとびかかるときだけツメを出す。しっ

かりととらえるため、ツメとぎの習性がある。

⑦赤ちゃんの出産

○生後約半年で赤ちゃんを産めるようになり、以後、年 3～4 回の間隔で出産できるようになる。

○妊娠(にんしん)期間は平均約 2 ヶ月ちょっと。

○1 頭のめすネコが、1 回に 6 頭出産、1 年間 3 回出産したとすると、1 年間に約 80 頭にもなる。

⑧年齢[人間に比べるとネコの成長は早く、命は短い]

○1 年で人間の約 15 歳、2 年で約 24 歳。

その後の 1 年は人間の約 4 年分。

○平均じゅみょうは 15 歳前後といわれている(あくまで「めやす」)。



2 犬・ネコの習性(しゅうせい)

犬・ネコは家族同様のペット(コンパニオン・アニマル)と言われる。犬・ネコと人が共に生活するうえで、犬・ネコの習性などを知るとはとても大切なこと。基本的なことを知っておこう。

(1) 犬の習性

①むれで行動する

○ペットの場合、むれのなかまは家族みんな。

家族といっしょにいるのが幸せ。

○毎日、散歩やふれあいを十分行い、愛情(あいじょう)を



感じられるような生活が大切。

②むれの中で平和にくらそうとする。

○信頼(しんらい)でき、愛情を注いでくれると感じれば喜んでしたがう。

○犬から信頼される飼い主になることが大切。

④自分の領域(りょういき)を守る。

○他の動物が自分の領域に入ってきた場合、それを防ごうとする。

○人通りの多い所は緊張(きんちょう)と不安でストレスがいっぱい。もの静かな場所にハウス

(クレートやケージ)を設置するとよい。

⑤にげるものを追う。

○散歩中(さんぼちゅう)に、ネコや自転車(じてんしゃ)を見つけ、急においかけることがある。だから、うなっている犬に出会ったときは、犬と目を合わさず、電柱(でんちゅう)のようにじっとしているのがよい。

⑥もともと体温ちょうせつがにがてであり、あつさに弱い。

○毛におおわれ、しかも汗腺が少ないため、暑さによわい。

○熱中症にならないように水を与える。日かげや風通しの良いところが良い。

(2)ネコの習性

①ネコは一匹きで狩(か)りをする。そっと獲物(えもの)にしのびよってとらえる。

○好奇心(こうきしん)にあふれ、気が向いたときあまえ、遊びたいとき遊ぶ。

②活発(かっぱつ)に動くのは主に明け方や夕方といわれている。

○えものが動き出す明け方と巣(す)に帰る夕方が狩(か)りのチャンスだから。

③高いところ、せまいところを好む。

○単独行動(たんどくこうどう)のネコは、おそわれにくい高い場所を好む。

○室内飼育のネコには、せまくても自由に上り下りできる環境づくりが大切。

④安心できる自分の領域(りょういき)をつくる。

○日あたりがよく、くつろげる場所のあるところを好む。

○飼い主や身の回りのものに体をすりよせ、においを付けて安心感をもつ。

⑤ツメをとぐ。

○古いツメのさやをけずり落とし、鋭(すど)いツメで外敵(がいてき)から身を守るため。

○ツメと皮膚(ひふ)との間からでるえきをこすりつけ、マーキングするため。

⑥セルフグルーミング(毛づくろい)をする。

○グルーミングには、毛並みの手入れやからだのにおいを消す効果がある。

○気持ちを落ち着かせる効果がある。

⑦高いところに上ったりおりたりする上下運動が好き。

⑧動くものにじゃれついたり、飛びついたりする遊びが好き。

3 犬・ネコのしぐさと気持ち

犬・ネコもいろんな気持ちをしぐさで表現する。

それを知って、犬・ネコと楽しい生活をすすめていこう。

(1) 犬のしぐさと気持ち

①あくび「落ち着こう。なんか不安だなあ。」

②顔や目線をそらす「けんかするつもりはないよ。仲良くなりたいな。」

③首をかしげる「なんて言ったの、聞きちがいじゃないかな。」

(2) 犬のシippoと気持ち

①はげしくふる「楽しい～。うれしいよ～。」

②足の間に入れる「こわいよ～。」

③持ち上げる「ぼくの方が強いんだぞ！」



(3) ネコのしぐさと気持ち

- ① ゆっくりまばたきをする「大好き！」
- ② 飼い主のじゃまをする「遊んでほしいよ！」
- ③ しせいを低くしてはなれる「かまって欲しくないよ・・・」

(4) ネコのシッポと気持ち

- ① 上の方に立てる「うれしいー！」
- ② 大きくはげしくふる「なんかイライラするなー」
- ③ 足の間にまき込む「こわいよ・・・」

※ 新たな飼い主との出会い「譲渡(じょうと)会」

おおいた動物愛護センターは平成 31(2019)年 2 月 17 日に開設(かいせつ)された。大切な命を救うために、新たな飼い主との出会いを進める譲渡会(じょうとかい)をおこなっている。

新たな飼い主に出会った犬・ネコの数はこちらのとおり。

{開設時(2019年2月17日)～2022年6月30日}

- 犬 (570頭)
- ネコ(1079頭)

